

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500782		
法人名	社会福祉法人 寿泉会		
事業所名	八幡園グループホーム		
所在地	三重県津市津興2947番地		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町提出日	平成25年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyousoCd=2470500782-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成24年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の施設として自治会や地域の方々との関係性も年々深まり、自治会活動や行事への参加等の交流は元より防災訓練などへの協力でも地域に欠かせない存在となりつつある。利用者も地域の一員として生活することが出来ている。また、利用者の生活も街場の利を生かして買い物や外食なども手軽に出来る環境にあり、希望に応じて外出の支援を容易に受けられるため、活性化に役立てられている。更に季節のお菓子作りや日曜日の食事作りで食の楽しみや興味を引き出す取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との繋がりを大切にしており、積極的に自治会の行事・防災訓練等に参加したり、サロンを月1回開催し地域の方々から来所する等の機会を作り、事業所をより理解していただくように努力を続けている。あきらめない介護を目指し、利用者ができることできないことを見極め介護にあたり、本人らしさを引き出すことを心掛けている。利用者・職員が和気あいあいと暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	八幡園グループホームは職員全員が理念を共有して実践している。	理念を事務所に大きく掲げられており、名札の裏にプリントされ職員間の共有をしている。あきらめない介護を心にとめ日々実践しており、会議や日々のミーティング等で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が八幡町自治会の一員として生活できるように行事の参加だけでなく日頃から相互に協力体制をとり日常的に交流を行っている。	自治会の盆踊り、幼稚園や保育園の運動会の予行演習等に利用者と共に参加したり、地域の防災訓練に職員が参加し支援をしている。また、第1日曜日に交流サロンを開催し、地域の方々の交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会あるごとに自治会をはじめ老人会などを通じて理解を深めてもらえるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービス向上のために話し合いで出た事案をもとにケアに活かすようにしている。	奇数月の第4水曜日に開催しており、市、包括、民生委員、自治会、家族等が参加している。家族からの意見も活弁に出ており、制度改正時には市の担当者から説明を聞いたり、災害時の対応等について意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を中心にさまざまな情報の交換や相談が出来るような協力関係を築いている。	運営推進会議以外には、市役所に出向く時には必ず担当の課により情報交換等を行っている。また、市からグループホームの見学依頼を受けたり、地域の認知症等の講習会の依頼を受け職員を派遣している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは無関係な環境づくりのため職員の徹底した話し合いと掲示物での啓発を行っている。	採用時マニュアルで説明し、拘束に関する念書を職員から取っている。会議及び日々の実践において指導及び話し合いを行い、拘束をしないように取り組んでいる。2Fの出入りはエレベーターにより、開閉には暗証番号が必要となっている。	日々の行動が拘束とならないか等、話し合う機会を持つ為に研修を行い、職員の拘束に関する理解がより高まることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員其々が意識するように話し合いの機会を持って防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用者がいる為、身近に理解や活用について考える機会があり、実践が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族には理解と納得が得られるまで丁寧に説明をした上で契約を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望を遠慮なく出してもらえるような関係作りに努め、出された意見には素早い対応で運営に反映するように取り組んでいる。	家族が面会に来た時やミカン狩り等行事に参加した時に、家族の意見を聞く等している。運営推進会議にも家族が必ず参加しており、家族の発言に対し真摯に受け止め対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議だけでなく職員の意見や提案を日常的に取り上げられるように話し合いの時間をこまめに持つようにし、素早く活かせるようにしている。	毎月行われる会議で職員との意見交換が行われている。福祉用具の導入や備品についての希望等あり、検討し対応している。管理者、施設長にも意見が言い易いやすく、日々話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の適性に合わせて働くことが出来、未長く働きたいと感じられるような就業環境への配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の内外への研修への参加並びに実地での教育や将来を見据えて資格試験へのフォローアップ体勢を整えて実際に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会や研修への参加の機会に交流を通じてサービスの質向上に繋がるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者にとって全てが受け入れられ、安心できると感じられるような雰囲気作りはもとより本人の心の声が出せるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が本当に必要としているサービスについてしっかり話し合い、本音を言えるような雰囲気と環境作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族からの意見をもとに全体像の把握に努め適切な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の意思を尊重しつつ、無理なく出来る事をして頂くことで日常生活の手助けをしてもらう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の支援によっても利用者の生活が成り立っている事の理解を仰ぐと共に実際に外出や買い物、受診の付き添いの支援などで支えてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係する方や場所へ実際に行き来しやすい雰囲気作りはもとより現に馴染みの方々の面会や訪問があり、行き来がしやすい環境づくりを行なっている。	利用者の多くの方が事業所の周辺の方で、近所の方が来訪したり、バス停が近いことで知人が来ることもある。キリスト教信者の方には教会の方が来たりしている。来所者にはお茶を出し、気軽に来ていただくような対応を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自のペースは保ちつつ利用者同士が助け合ったり楽しく交流して社会性を保ち続けられるようにおしゃべりやレクリエーションの機会を多く作ったり日常の中で良い関係が続くよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も相談の窓口を閉めることなく機会があればいつでも相談に乗れるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いの把握のために言葉だけでなく家族も含め全職員の目や肌で感じ取ったことも検討して対応に努めている。	センター方式を利用し、利用者の思いを把握するように努めている。日々、会話を大切に、生活歴等を基に利用者の顔色・顔つき等から汲み取っている。その場で職員で話したり、ボードに張り紙をしたり記録をすることで情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者はもとより家族や縁故者からも出来る限り聞き取りを行い、より多くの情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の詳細な記録や職員からの報告や本人の実際の姿や行動から細部にわたっての把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の実状によりマッチした介護計画が出来るように関係する人達で細かなモニタリングを行いそれによってアセスメントの検証を行う事で更に介護計画が良いものになるよう努めている。	毎月、担当者がモニタリングを行い、3ヶ月に1度計画の見直しを行っている。毎月会議で計画について全職員の意見を聞き、担当者及び計画作成者で作っている。面会時に家族の意見を聞き、計画作成後、郵送し電話にて確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を詳細につけて本人の現状を良く知る事で職員の情報の共有が図れるため見直しに役に立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化した各自のニーズを満足したものにするため特に食事や嗜好品、衣服、生活雑貨購入などに素早く柔軟な対応をすることで満足してもらえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や老人会、幼稚園など地域の資源の協力を得たりボランティアの訪問で楽しく元気な日常を過ごせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が健康に不安を感じることの無いように状態に合わせてかかりつけ医と連携が取れるように支援している。	従来からのかかりつけ医の方が7名であり、受診は家族であるが出来ない時には事業所が支援している。受診に際し双方が情報提供・報告を行っている。事業所協力医が嘱託医であり、年1回の検診を受けており、利用者の状態は日頃より報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理はもとより急病における事態でも連携は素早く取れるようになっており、日頃から看護師との協働体制は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者や家族が不安に感じないように医療機関との連携がスムーズに行くよう看護サマリーの提出やケアマネージャーによる情報交換など関係作りはしっかり行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の初期段階から本人あるいは家族の意向を聞き取り、その後も機会をみては意向の確認をしつつチームでの支援に取り組んでいる。	開所後10年の間に2名の看取り経験がある。ターミナルの指針があり「看取り・介護・医療の同意書」を取っている。家族の希望があれば医療を伴わないケースであれば対応をする方向である。	利用者が高齢化しており、看取りに備え研修を実施し、職員及び家族が満足いく看取りができるようになることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に備えて日頃から話し合いを行ったり事故報告書の検討をしたりマニュアルから学んだりして急変時に誰でも対応出来るように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域ぐるみの防災訓練や事業所での防災訓練で職員全員が対応できるように訓練をしており、自治会との協力体制も構築できている。	地域住民と共に7月には避難所の移動、11月には炊き出し訓練を行っている。事業所では9月に夜間想定をした避難訓練を実施し、課題を検討している。災害時の地域住民の受け皿として備蓄等も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の状態に合わせて尊厳をもって優しく言葉かけや対応を行っている。	食事介助されている事を他の人に見られるのが嫌な方は食事時、席をずらす等配慮をしている。家族の話、個人的な事は部屋でしたり、部屋の見学も許可を得て実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でたとえ僅かでも自分の意思が反映できる場面があれば本人の意思を尊重するように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを大切に生活に窮屈さを感じないよう配慮し、ゆとりと自由を尊重した日常が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向や好みに合わせて清潔で気分よくいられるような支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りでの意見を取り入れることはもとより、給食においても要望を最大限取り入れて満足出来るような取り組みを行っている。また、調理や片づけを利用者にも協力してもらえるよう支援している。	朝食と日曜日は職員が作り、他はデイの厨房で作られているが、残渣量が多い時等栄養士に報告している。利用者の希望を聞き、日曜日のメニュー等に反映している。職員と共に会話をしながら食事をしたり、季節のおやつ作り等で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康維持や管理のため食事や水分の摂取量の把握は職員全員が出来るよう申し送りで伝えており、体調によってはチェック表で詳細に量の確認も行い看護師との連携も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて個別に口腔ケアを行っている。歯科医師に相談し、専門的なケアで支援を図ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄について職員全員がチェック表をもとに詳細な把握をしており各人に合わせて可能な限り排泄が自立して生活が送れるような支援を行っている。	入居～1ヶ月位かけて排泄のパターンを把握し、時間的誘導を行っている。トイレでの排泄を基本としており、夜間も自室のトイレに誘導している。汚染が多い利用者も、声掛けで汚染が少なくなる等の改善が見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と水分が充分取れているか、運動は出来ているかなど便秘予防の為に排便チェック表を参考に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に5回の入浴時間を設けて入浴の楽しみの機会を多くしている。入浴剤や好みの洗髪料を使ってゆったりと楽しい時間になるよう支援している。	入浴は週5日、午後から実施しており、少ない方でも週3～4回入浴している。浴槽が2つあり、同時に入浴することで利用者の交流の場となっている。使い慣れたシャンプーを使ったり、入浴剤を利用し楽しんでいる。また、季節のゆず湯等も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個室は好きな時に自由に休息が取れるようにしてあり、共有のホール内にもソファを置いて休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬への支援は責任をもって行っている。医師や看護師との連絡も取れるようにしてあり健康維持のための支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各自の楽しみや嗜好の把握に努め嗜好品等はタイミング良く提供している。生活の中で掃き掃除や片付け、生き物の世話など張り合いを感じられるような声掛けや促しなど支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を多く持てるよう散歩や買い物、喫茶店やレストランでの外食支援など行っている。家族の協力を得て、自由に外泊や帰省なども出来るように支援している。	気候のよい時には近くの地藏堂に出かけたりしている。また、季節の花見や家族との行事、地域の夏祭り、外食等に出かけている。利用者の希望があれば、近くのスーパーにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が自由に金銭を使えるように月々のお小遣の使い道を検討したり、お財布を持って買い物に行ったり希望に添える支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望にあわせて自由に電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居心地が良いように掃除の徹底と季節感を常に感じられるような草花を飾ったり風物を取り入れた飾りつけをして心和む空間作りに努めている。	クリスマスツリーや壁には利用者と職員と協働のクリスマスの作品が貼られていたり、行事の写真が貼られており、廊下の壁には造花ではあるが飾られている。天窓から入る採光が廊下や居間に入り、明るい雰囲気である。居間にはソファが3つ置かれており、利用者がのんびりと過ごす事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に座れるソファや椅子を設置しており一人でのんびり出来る空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の自由なスペースとして規制をせず、好きなものに囲まれて生活できるように居心地が最優先になるよう支援している。	トイレ・洗面所があり、筆筒・床頭台・ベット・小型の洋服筆筒が備え付けられている。壁に家族の写真が貼られたり、花の好きな利用者のベランダには鉢植えが多くあり世話をしている。部屋に障子があることで温かみを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には個人の名札や表札をつけて判り易く自分の部屋と解かるように工夫しており、手すりや背もたれの活用で安全な歩行ができるよう支援している。		